

令和5年3月15日  
愛媛大学

## 日本初記録のスカシバを発見 ～カジノキヒメスカシバを松山市で発見～

愛媛大学大学院農学研究科 吉富博之准教授は、環境科学 NT 株式会社の矢田直樹氏、名城大学名誉教授の有田豊氏と共に、カジノキヒメスカシバ（チョウ目、スカシバガ科）を愛媛県で発見し、記録しました。本種は中国や台湾に分布するスカシバガの一種で、日本では未記録の種になります。幼虫の食樹はカジノキで、カジノキは西南日本に広く分布することから、他地域でも発見される可能性があります。

本研究成果は、日本蛾類学会の学会誌「TINEA」にて、2023年2月発行の26巻4号に掲載されました。

つきましては、是非ご取材くださいますようお願いいたします。

### 記

掲載誌 : TINEA, 26巻4号 (2023)

題名 : Discovery of *Tinthia cuprealis* (Moore, 1877) (Lepidoptera, Sesiidae) in Shikoku, Japan

和訳 : 四国から *Tinthia cuprealis* (Moore, 1877) カジノキヒメスカシバ(新称)を発見

著者 : Yata, N., H. Yoshitomi & Y. Arita (矢田直樹・吉富博之・有田豊)



愛媛県で発見されたカジノキヒメスカシバ

#### 本件に関する問い合わせ先

愛媛大学大学院農学研究科(愛媛大学ミュージアム兼任)

准教授 吉富 博之

TEL: 089-946-9898

Mail: hymushi@agr.ehime-u.ac.jp

※ 送付資料 3 枚(本紙を含む)

※論文のコピーは提供可能です。

## <研究成果>

愛媛大学大学院農学研究科 吉富博之准教授は、矢田直樹さん(環境科学 NT 株式会社)と有田豊さん(名城大学名誉教授)と共に、日本では未記録であったカジノキヒメスカシバ(チョウ目、スカシバガ科)を愛媛県で発見し記録しました。本種は中国や台湾に分布するスカシバガの一種で、幼虫はカジノキの幹の中に入り込み樹液を食べています。

## <研究の背景>

2019年7月に松山市在住の高橋賢悟さんにより松山市野外活動センターにおいて正体不明のスカシバの写真が撮影されました。写真撮影後にスカシバは飛び去り標本は残っていません。吉富准教授のもとにこの写真が送られてきましたが、日本でそれまでに知られる種ではないと考えられたことから、スカシバガの研究をしている矢田直樹氏と有田豊名誉教授に写真を送りました。写真のスカシバは少なくとも日本では知られた種ではないこと、中国と台湾で知られるカジノキヒメスカシバ *Tinthia cuprealis* に近縁である可能性が高いことが判りましたが、標本が無いと断定できませんでした。カジノキヒメスカシバは、体長が7mmほどの小さなスカシバの一種で、中国や台湾に分布しています。カジノキなどのクワ科木本が食樹とされています。

そこで、吉富准教授が標本を得るために松山市野外活動センターに頻繁に通い野外調査を行いました。2020年はコロナ禍の影響もあり、全く手がかりがありませんでした。2021年はカジノキから蛹の抜け殻を発見しました。最初に写真が撮影された場所から直線で100mほど離れたところでした。2022年には松山市野外活動センターの許可を得て、発生しているカジノキうち1本を伐採していただき、その伐採木を研究室に持ち帰ることにより6個体の成虫を得ることができました。標本を詳細に検討した結果、中国と台湾で知られるカジノキヒメスカシバと同種であると判断されました。

## <成果内容>

今回得られた標本を基に詳細な記載を行い、日本初記録として報告しました。標本は国立科学博物館と愛媛大学ミュージアムで保管予定です。

また、本調査中にカジノキの幹内に生息するアリの巣の中からそこに生息するテントウムシに関する新発見があり、別に論文として公表しました(Yoshitomi, 2023. Entomological Science, 26: e12543)。

## <展望>

本種は西南日本には広く分布するカジノキを食樹としていますので、西南日本で広く見つかる可能性があります。2021年と2022年には愛媛県内広域でカジノキの調査を行いました。他の場所では確認することができなかったことから、カジノキヒメスカシバはかなり珍しい種である可能性があります。松山市野外活動センターでもカジノキはたくさん見られますが、発生を確認しているのは4本だけでした。そもそもカジノキは、古くから栽培されていた個体が野生化したものと考えられています。もしかするとカジノキヒメスカシバも古い時代に日本に入った外来種なのかも知れません。今後は分布調査と共に生態面での調査も行う予定です。

今回の発見は、一般の方が撮影された写真がきっかけとなっており、市民科学的側面が強いものと考えられます。加えて、愛媛大学と公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団との連携協定があったことからスムーズに研究を進めることができました。

### <謝辞>

本発見については、以下の機関と個人にお世話になりました。

松山市野外活動センター（レインボーハイランド）

野本英也さん（野外活動センター）

高橋賢悟さん（松山市）

愛蝶会

窪田聖一さん（松前町）

### 【補足情報 スカシバとは】

スカシバガ（チョウ目スカシバガ科）は、成虫が昼間に活動する蛾の一群で、ハチのような姿をしており美しい斑紋を持つ種がいることから日本やヨーロッパではたいへん人気の蛾の仲間です。スカシバの名前の由来は、翅に鱗粉を欠き透明な部分がある種が多いことから“透かし翅”となったことによると考えられます。幼虫は樹木や草の幹や茎の幹の中で樹液などを食べており、そこで蛹になったあと、幹から蛹が半分飛び出る形で羽化脱出します。成虫の発生期間は一般的に短く、普通な種であっても野外でその姿を発見することは困難なことが多いです。日本では 40 種ほどが知られ、キウイフルーツの害虫のキクビスカシバや、ブドウの蔓に寄生し釣りの餌として利用されるブドウスカシバなども知られていますが、一般的には珍しい種が多いです。



図 愛媛県で発見されたカジノキヒメスカシバ

（図は高画質のものを提供できます。また、論文内で使用されている他の写真も提供可能です。）